

障がい者の自立と社会参加の充実

～多様性を認め、互いを尊重できる社会の実現にむけて～

困りごとを伝える勇気

私は聴覚障がい者です。学生時代は障がいがあることを周りに言えずにいました。

聞こえが悪い私に対して、わざと聞こえないようなひそひそ話などのいじめを受けました。



就職してからは、会話が聞こえないと仕事に支障が出るという困りごとを改めて実感しました。

それを解消するために、勇気をもって周りに難聴であることを伝えたところ、様々にフオーをいただくことができました。

仕事や生活に充実感を得ることができました。



でも、伝えることができる人ばかりではありません

一目見て障がい者と判断できない人はたくさんおられますし、自分から困りごとを発信できない人もおられます。



そのような人たちは、ヘルプマークを提示することで、公共施設や多くの企業の窓口などで、対応してもらうことができます。



難聴障害です。
筆談をお願いします。

でも、障がい者の困りごとに気が付かない人や知らないふりをしている人がいるのは事実です。

このことを改善するためには、社会課題としての障がい者問題についての学習・情報提供の機会に積極的に関わっていくことが大切だと思います。

障がい者の自立への理解と、お互いを尊重できる社会の実現にむけて

障がい者にとつての自立とは、その人が持つ能力に応じた適切な支援を受けながら、自宅や施設などで生活を送ることや、地域社会や企業活動などに参加できるようになることです。

私たちが、障がい者と接するとき、その思いや意見を丁寧に聞き、困りごとに対して何ができるのかを考えて行動することが、自立への支援となります。

このような支援を受けながら、障がい者自身が持つ能力を活かして友達や社会など依存できる先を増やすことで、自信をもち、自分らしく生きていくことにつながります。

障がい者を含むすべての人たちが、多様性を認め、人権を尊重しながら、生き生きと暮らせる社会の実現のために、寄り添い、学び、お互いに成長していきましょう。

